

優秀賞

都市計画道路3・3・9号 環状線道路改良事業（高崎市）

■表彰対象者：群馬県高崎市都市計画部

表彰の理由

長年に渡る幾多の困難を乗り越えて整備された本路線は、その機能が有効に発揮され、中心市街地へ流入する通過交通が排除されるなど、市街地交通の健全化に大きく寄与したことが評価の対象になった。



JR上越線との立体交差（昭和48年度完成）



JR上越線との立体交差（夜景）周辺の閑静団地

事業のあらまし

本路線は、国道18号線を起点に、新市街地を右に回り国道17号線に至る全体延長11.13km・基本幅員25.0mの都市計画道路である。当初都市計画決定は、昭和33年である。事業は、昭和38年に街路事業で事業化し現在に至る。この間32年間という長い年月と多くの問題点を乗り越えて全線開通の日をみることとなった。



環状線の完成後、新住宅街が形成された地区（昭和59年度完成）



環状線最終工区となった地区（平成7年3月完成）

事業の効果

高崎市は、古くから交通の要所として栄えた。そのため、現在でも関越自動車道新潟線・上越線等高速交通ネットワークの結節点としての機能を保持している。しかしながら、このような利便性と反して中心市街地への通過交通が非常に多く、健全な市街地内交通が阻害されていた。しかし、環状線の部分的開通により確実に健全化されつつある。このため、全線開通に寄せる内外の期待は大きく、全線開通すれば、本市の交通体系の再編成に向け、大きく前進する。

- ・新市街地の形成 ・防火空間の確保
- ・通過交通の排除
- ・比較的広い歩道部の植栽による緑のネットワークの形成

- 全体延長：11,130m（街路事業整備延長8,510m）
- 基本幅員：25.0m
- 全体事業費：12,000百万円
- うち街路事業費：7,365百万円
- 事業期間：昭和38年度～平成6年度

都市計画道路 杉ヶ町高畑線整備事業（奈良市）

■表彰対象者：奈良市都市計画部

表彰の理由

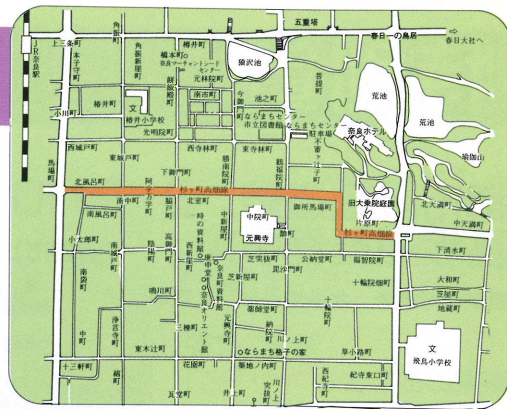
古い街並みを生かし、歴史的景観に配慮した道路整備を行うことにより、通過交通の処理、周辺地域の活性化に貢献しているとして評価された。



全景（昔の町並みを残す周辺景色と合う道路づくり）

事業のあらまし

奈良市は1998年に市政100周年を迎えるにあたり、「世界建築博覧会1998奈良」を開催することになっている。現代における街づくりや、建築物の潮流を様々な角度から探ることを展開指標としているため、この道路がこれらのアクセス道路として重要な役割を果たしている。



町のシンボルのイチョウを残した道路整備



周辺景色にマッチした歩道



設置された塑像

事業の効果

道路の供用開始後は奈良観光のルートとして観光客に喜ばれ、また地元住民からも親しまれ早朝の散歩に利用が増加し、喜ばれる道路づくりが出来た。

- 延長：923m
- 全体事業費：5,125百万円
- うち街路事業費：5,125百万円
- 事業期間：昭和50年度～平成6年度